

握り手 2

とりあえず、親指、4本の指の先端、手の平と3つの高さの差が出来ました。彫刻は引き算だから一番高い所、一番幅の広い所を確保するところから始まります。正面から見た親指の位置はわかった。では次は側面を見てみましょう。

側面はまだ、一つの塊のまま、まず親指を確保しましょう。

親指の外側に一分の丸刀をいれます。これだけで親指の位置が分かります。ここで自分の手を握って甲の側より見て下さい。親指は人差し指より少しだけ外側にありますね。だから、分けたら、人差し指の側を少し取って親指を外に出して下さい。

ここまででも、かなり重要な考え方がいくつも出てきているのが分かるでしょうか。

彫刻は与えられた用材から最小限マイナスして、最大の量で彫りだす。

そのために、一番高い所、一番幅の広い所を残すためにまずはその部分の図を描く＝手の場合は親指

親指を分け、それ以外の部分を取りさることで、親指が確保される。

親指を分けてしまえば、次は親指以外を考えることが出来るようになる。

正面だったら、他の4本の指の先端、側面だったら、人差し指の親指側の面などが見えてくるのできちんと出す。

今回は分けるというのが一つのキーワードです。

すこし抽象的な表現ですが、何かを分けたら、次が出てくる。そのたびに、“どれくらい？”と必要量を確保することで、次の面を出す。彫刻とはまたそこで、それはどの位置？どんな形？どんな深さ？と考えながら引き算を続けていく作業です。



晴れもよし
雨もまたよし
すべてがそのままで
二度おこ